

新型コロナウイルス感染拡大防止対策における
 一種養成施設の養成課程の実習の一例

① 実習内容で座学にて学べるもの（自宅学習）	② 実習内容で作業を伴うもの（校内学習）	必要な実習時間の考え方
I. PCやスマートフォン等の電子機器を活用し、講師が実際に作業しながら整備手順を説明したものを動画で配信する。	<p>感染防止対策を最大限に講じたうえで、生徒を少人数で輪番制にて登校させ、実習を行う。</p>	<p>①及び②の合計を実習時間とすることができる。 例：必要な実習時間を10Hとした場合 (①5H+②5H=10H) (①7H+②3H=10H)</p>
II. 講師が実際に作業しているところを写真に撮り、整備手順の説明は写真を使用し、説明文を加えたものを資料にして、I.と併せデータを配信する。		
III. PCやスマートフォン等の電子機器を所持していない生徒においては、II.の資料を紙媒体にし、生徒あてに郵送する。		